首都大学東京の未修言語履修に関する個人的アピール

西山雄二

（フランス語圏文化論・准教授） mail: nishiyama.tmu@gmail.com

首都大学東京の未修言語科目（ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語…）に関して、学生のみなさんにお伝えしたいことがあって、個人的アピールを以下に記しています。

首都大学東京の例外性

首都大では、ほとんどの学部・学科において、未修言語科目は「必修」ではなく、「選択」です（人文社会系と地理環境・建築都市コースのみ必修）。未修言語がこれほど全学的に必修ではない大学は、A-B ランク大学では見当たりません[1]。首都大のように外国語科目が英語だけで OK な大学は、中・低偏差値大学と専門学校になります。A ランク大学にもかかわらず、首都大はきわめて例外的です。

未修言語が必修ではない学部・系の履修率の状況：「英語だけで十分。それ以上、外国語なんて、大変だからとらない」という考えが学内に蔓延し、未修言語の履修率は激減。未修言語が必修ではない学部・系の履修率は 47.1%（2012 年度）で危機的な兆候を示しています。たしかに、1 年次から必修科目が大変だったり、深刻な語学アレルギーがあって、どうしても履修したくない学生はいるでしょう。

ただ、新入生の後輩たちに「未修言語はキツイから、とらない方がいい」と安易な気持ちで助言し、未修言語不要の空気を醸成しないでもらえないでしょうか。
新入生自身の判断に任せてあげてください。
未修言語を学ぶ貴重な機会を逃して、後で後悔している学生も少なくありません。

なぜ、未修言語の習得は、知性の洗練や文化理解のために、きわめて役に立つのでしょうか？

①新しい世界の可能性　英語だけではなく他の外国語も学ぶことは、世界をより広く理解する手助けとなります。今までにない知の営み、今までにない感性、今までにない世界をもう一つ獲得することです。新たな外国語を学ぶことは、あなたが住む世界を広げ、共有できる世界観、愛することができる美しさ、感じることができる人々の息づかいを手に入れることです。
②論理的思考の涵養　数学と同じく言語はきわめて合理的な体系であり、知性の訓練に最適です。語学は若い時期にこそ訓練を積むべきで、それは基本的な論理的思考を養います。
③言葉そのものの洗練　未修言語を学ぶことで、英語はもちろん、日本語の立体的な理解が促進されます。私たちは毎日、一生、言葉を使います。たしかに英語や未修言語を実際に話さないかもしれませんが、毎日使用する言葉そのものへの能力と感性を磨くことができます。例えば、サッカー選手が水泳やテニスをかじることは身体能力の向上に、ピアノ奏者が太鼓やフルートをたしなむことは音楽的感性の洗練に役立ちます。
④貴重な最後の機会　**多くの人にとって、大学 1 年次は未修言語を学ぶ、人生でほとんど最後の機会**です。社会人になってから語学学校に通うこともできますが、同じ分量の授業（週 2 コマ・1 年間）を受講すると年間 10 万円はかかります。

以上のような理由から、日本の A-B ランク大学では、根本的な教養として未修言語が必修になっています。なるほど、未修言語は大変なわりに単位が少なすぎて、効率が悪いのでしょう。そこで、**2013 年度の入学生から、未修言語の I・II の単位を倍増**しました。「他の教養科目と比べて、単位が半分で損」という不公平感は解消されるでしょう。

私は、首都大学東京が、ほかの A-B ランク大学と同じように、異文化理解を深め、国際社会に相応しい教養を培うことのできる理想高き大学であってほしいと願っています。未修言語の危機的状況はそうした目標に逆行する深刻なブレーキになっています。

首都大学東京に理想を抱き、賛同してくれる学生のみなさんに呼びかけます。

「未修言語はとらなくていい」という根拠のない空気をつくらないでもらえませんか。
未修言語の履修は新入生自身の判断に任せましょう。
そして、できれば、未修言語を履修して、根本的な人間力を磨き、自分の世界観を広げましょう。

（註 1）東京大、京都大、大阪大、名古屋大、北海道大、東北大、神戸大、広島大、九州大、筑波大、東京工業大、横浜国立大、埼玉大／大阪市立大、名古屋市立大／早稲田大、慶応大、明治大、立教大、中央大、青山学院大、津田塾大、ではほぼ全学部・学科で 1 - 2 年次に未修言語が必修。